

問7 市場分析と需要予測に関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

清涼飲料メーカーのZ社は、海外の5か国（A国、B国、C国、D国及びE国）への進出を検討している。Z社の企画課では、各国の清涼飲料市場の分析を行うことにした。

設問1 図1は、2002～2011年（以下、対象期間という）の各国における清涼飲料の年間販売数量の推移である。図1に関する記述の中で適切なものを解答群の中から三つ選べ。ここで、対象期間販売数量伸び率とは、次の式で求められる値とする。

$$\text{2011年の年間販売数量} \div \text{2002年の年間販売数量}$$

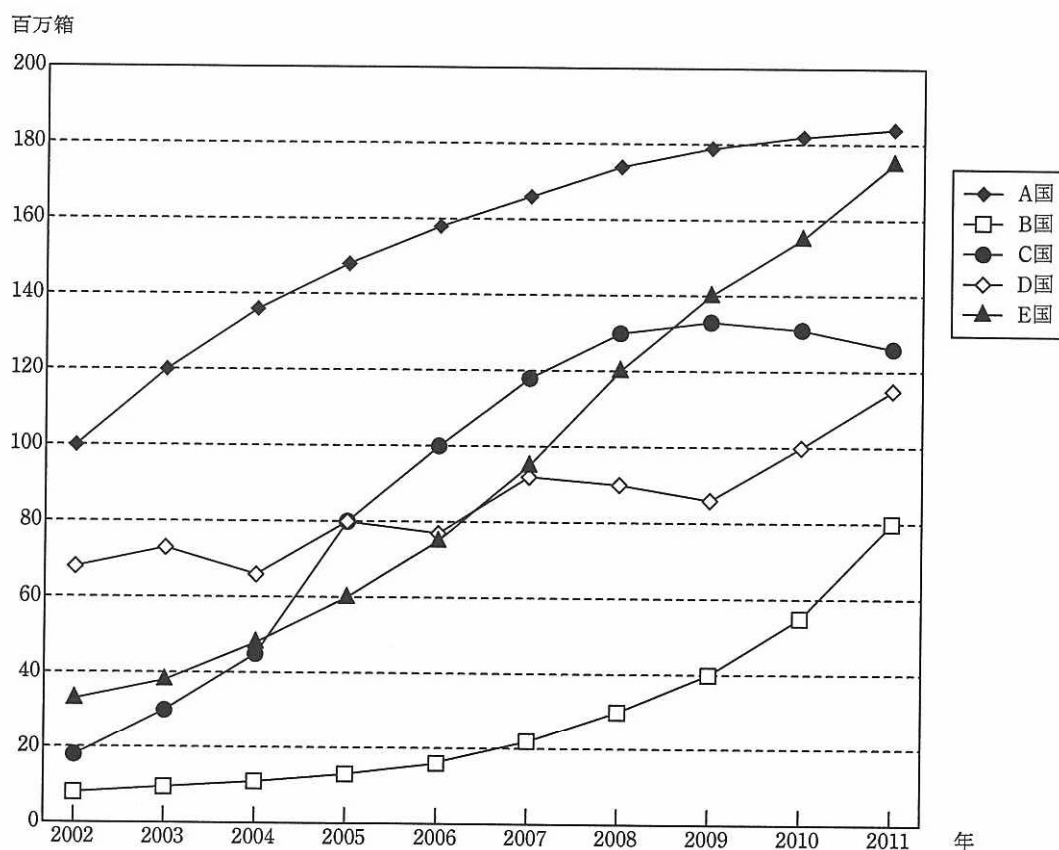


図1 2002～2011年の各国における清涼飲料の年間販売数量の推移

解答群

- ア 5 か国合計の年間販売数量は、対象期間中において毎年増加している。
- イ 5 か国の年間販売数量の順位に変動があったのは、2005 年と 2009 年だけである。
- ウ A 国は 5 か国の中で対象期間中の販売数量が最も多く、対象期間販売数量伸び率が最も高い。
- エ B 国は 5 か国の中で対象期間中の販売数量は最も少ないが、対象期間販売数量伸び率は最も高い。
- オ C 国は 5 か国中で唯一、2011 年の年間販売数量が 2002 年よりも少ない。
- カ D 国は 2008 年から 2011 年までの年間販売数量は毎年増加しているが、対象期間販売数量伸び率は 5 か国の中で最も低い。
- キ E 国は 2002 年に対する 2011 年の年間販売数量の増加量が 5 か国の中で最も多い。
- ク 年間販売数量が対象期間中において毎年増加しているのは 2 か国である。

設問 2 企画課では、各国の清涼飲料の年間売上金額についてのデータを収集した。ここで、年間売上金額は、年単位に更新される為替レートで換算された米ドルのデータしか入手できなかった。表 1 はその抜粋であり、2010 年と 2011 年の C 国における清涼飲料の年間販売数量と年間売上金額である。表 1 に関する次の記述中の に入れる適切な答えを、解答群の中から選べ。

表 1 2010 年と 2011 年の C 国における年間販売数量と年間売上金額

	2010 年	2011 年
年間販売数量（百万箱）	131	126
年間売上金額（億米ドル）	10.4	11.3

表 1 について、企画課では、2011 年が 2010 年に比較して年間販売数量が減少しているものの年間売上金額は増加していること、すなわち平均の商品単価（年間売上金額 ÷ 年間販売数量）が上がっていることに着目した。企画課はこれらの原因として、インフレや増税などに起因する a 、C 国内の経済成長の結果としての所得増により b 、若しくは為替レートに関係した c のいずれか一つ、又はその組合せと考えた。これらの動きは、C 国の将来の市場成長に大きな影響を与える可能性があるので、企画課ではその要因を調査すること

にした。

aに関する解答群

- | | |
|------------|------------|
| ア 商品の種類の減少 | イ 商品の種類の増加 |
| ウ 商品の値上げ | エ 商品の値下げ |

bに関する解答群

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ア 高価格帯商品へ購入がシフト | イ 低価格帯商品へ購入がシフト |
| ウ 商品の購入頻度が減少 | エ 商品の購入頻度が増加 |
| オ 商品の購入量が減少 | カ 商品の購入量が増加 |

cに関する解答群

- | | |
|----------------|----------------|
| ア 日本円に対する現地通貨高 | イ 日本円に対する現地通貨安 |
| ウ 日本円に対する米ドル高 | エ 日本円に対する米ドル安 |
| オ 米ドルに対する現地通貨高 | カ 米ドルに対する現地通貨安 |

設問3 企画課では、各国の将来の需要予測を行うことにした。需要予測に関する次の記述中の に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。

企画課では、各国の将来の清涼飲料の需要予測式を、年間販売数量を目的変数、1人当たりGDPと人口を説明変数として、重回帰分析を使って導出した。その結果、為替レートの変動が少ないE国に関する需要予測式は、次のとおりであった。

$$\begin{aligned} \text{E国の年間販売数量（百万箱）} &= 16 \times \text{E国の1人当たりGDP（千米ドル）} \\ &\quad + 35 \times \text{E国の人口（百万人）} - 872 \end{aligned}$$

表2は、企画課で推定したE国の将来の1人当たりGDP、人口及び清涼飲料の1箱当たりの平均単価の予測である。

表 2 E 国の将来の 1 人当たり GDP、人口及び清涼飲料の 1 箱当たりの平均単価の予測

	2011 年	2015 年	2020 年
1 人当たり GDP (千米ドル)	6.5	7.0	7.2
人口 (百万人)	27.1	27.0	26.8
1 箱当たり平均単価 (米ドル)	10	12	13

企画課では、需要予測式と表 2 から、E 国の清涼飲料の年間販売数量は、

と予測した。また、E 国の清涼飲料の年間売上金額 (米ドル基準) は、

と予測した。

d, e に関する解答群

- ア 2011 年に対して 2015 年が、2015 年に対して 2020 年がともに減少する
- イ 2011 年に対して 2015 年が、2015 年に対して 2020 年がともに増加する
- ウ 2011 年に対して 2015 年は減少するが、2015 年に対して 2020 年は増加する
- エ 2011 年に対して 2015 年は増加するが、2015 年に対して 2020 年は減少する